

十河氏らに吉田賞

土木学会賞 研究業績賞に石田氏

土木学会は5月18日、2025年度の学会賞を発表した。6月12日に都内のホテルで開かれる定時総会で受賞が行われる。

コンクリート工学の発展に寄与した人物や論文を表彰する吉田賞は研究業績部門で、元大林組で近未来コンクリート研究会代表の十

河茂幸、徳島大学名誉

教授の橋本親典、岐阜

大学名誉教授の内田裕

市、愛媛大学名誉教授

で愛媛県建設技術支援

センター理事長の氏家

勲の4氏が受賞した。

十河氏は「コンクリ

ートの製造と施工にお

ける品質向上に関する

研究」、橋本氏は「フレ

ッシュコンクリートの

可視化および施工性に

関する研究」、内田氏

は「繊維補強コンクリ

ートの引張軟化特性の

評価と実装に関する研

究」、氏家氏は「透気性

によるコンクリートの

品質評価に関する研

究」が評価された。

吉田賞論文賞は、ニ

チレキグループの永塚

竜也、前川亮太の2氏

と日本大学の岩城一
郎、前島拓の2氏によ
る「コンクリートの表

層品質に着目した道路

橋床版防水層のピンホ

ールとブリスタリング

の発生メカニズムの解

明」、日本大学の杉橋

直行氏と東京大学の岸

利治氏による「温度ひ

び割れ照査方法の課題

と確率論に基づくその

改善方法に関する研

究」、名古屋大学の中

村光、三浦泰人の2氏

と関西大学の山本尚史
氏、法政大学の山本佳
士氏による「繰返し荷

重を受けるRC部材に

おける内部ひび割れと

座屈メカニズムに関す

る研究」の3編が受賞

した。

また、東京大学の石

田哲也氏が「微細構造

を起点とする無機複合

材料の学理統合とマル

チスケール解析による

コンクリート構造デザ

ィタルツインへの展開」

で研究業績賞を受賞し
た。

そのほか、コンクリ

ート関連では、大成建

設が「CO₂排出量の

大幅な削減と産業副産

物の有効利用を目的と

した電力洞道工事への

環境配慮コンクリート

の実装」で環境賞、鹿

島建設が「生産性向上

に資する締固め不要コ

ンクリート(LACS

コンクリート)」で技術

開発賞を受賞した。

ト「イータフコン」な